

国指定史跡

糸数グスク

Itokazu Gusuku Ruins



糸数グスクミニガイド

Guide to Itokazu Gusuku Ruins

国指定史跡糸数グスクの概要

糸数城跡は、南城市玉城字糸数に所在し、標高約180mの丘陵上に築かれています。14世紀初め頃に玉城グスクの城主だった玉城按司が玉城グスクを守るため、西の守りとして、次男を大城グスク（宇大城）に、三男を糸数グスクに派遣し築城させたといわれています。東側を除く三方は断崖または急斜面となっており、比較的防御の弱い平坦な東側に高い城壁を築いています。また、北側と東側には「北のアザナ（物見台）」、「南のアザナ」、「南の虎口跡」と称される突出部が配置されています。これは、城壁に取り付いた敵を横矢掛けによって攻撃できるようにした防御の固い施設である。このような城壁には野面積と切石積の技法がみられます。



写真手前の突出部が南の虎口跡、奥が南のアザナです。

出土遺物



糸数城跡から出土したグスク土器

グスク土器やカムイヤキ、中国産陶磁器、沖縄産陶器、金属製品、貝製品、石製品等が出土しています。



蔵屋敷跡・堀切状遺構

蔵屋敷地区は、糸数グスクの東側に広がっており、集落としてグスクを支えた人々が生活を営んだ村落跡とされています。2つの石積囲いを中心とした蔵屋敷跡及び堀切状遺構が所在します。

堀切状遺構は、糸数グスクと蔵屋敷跡の集落を隔絶（かくぜつ）するように所在しており、幅約8m、深さ約2mを測ります。城側の上端には石が積上げられており、防御を意識したものと考えられます。

根石グスク



城主である糸数按司が糸数グスクを築くまでの一時的なグスクであったと伝えられています。現在でも村落祭祀の重要な場です。

いとかずぐすくのたき

糸数城之嶽



グスク内には石積で囲まれた「チノウチ」と呼ばれる拝所があり、低い石垣で楕円形に囲まれています。その中央にある高い岩は「糸数城之嶽」、その南側にある広場は「糸数城之殿」と呼ばれています。

案内地図

